

いまラリーがおもしろい!

# NASCクラシックカーラリー 第2戦開幕!



NASC  
sand works project

car  
MAGAZINE

Tipo

FET

Four Seasons

Rapit Max  
シートマックス

PILOT S.N

PILOT MS

NATS  
NIPPON AUTOMOBILE COLLEGE



F&O Systems

T&M CO.LTD

2006

2

START NASC Classic Car Rally START

NASC  
sand works project

car  
MAGAZINE

Tipo

FET

Four Seasons

Rapit Max  
シートマックス

PILOT S.N

PILOT MS

NATS  
NIPPON AUTOMOBILE COLLEGE



F&O Systems

T&M CO.LTD



今年から始まった日本初のクラシックカーラリーのシリーズ戦。その第2戦が長野を舞台に開催された。都会を離れ、大自然の中で頭を使いながら競い合うラリー。紳士のスポーツとして今最も注目の参加型イベントと言えるかも知れない。では早速その模様をレポートしよう。

## そもそもラリー競技ってなに?

もともとは、伝令などのために戦場から城に戻るための訓練が発展し、中世の騎士が行っていた騎馬競争が起源となっている。そしてレースとの大きな違いはタイムを競い合う競技ではないということで、主催者側から与えられたルートマップをもとに指定された速度通りにチェックポイントを通過し、そのプラスマイナスの誤差によって争われる。そしてルートの途中ではスペシャルステージと呼ばれる制限速度の無い区間が設けられ、その区間だけは純粋なタイムトライアルとなる。ちなみに世界最高峰のラリー、WRCやパリ・ダカも一緒である。



ラリーと言えば、砂漠の上や雪道でアグレッシブに走るモータースポーツをイメージする人が多いだろう。でも実際には、各チェックポイントに設定された時間ピッタリに到着することを目指して競い合うだけの競技なのである。従って、やろうと思えば仲間内で、しかもどんな所を舞台にしてもOKなのだ。

そんなお手軽ラリーの中でも60年代、70年代に作られたクルマ、いわゆるクラシックカーのラリーが今注目を集めている。体力よりも頭を使うことが重要なので、年齢を問わずに楽しむことができ、普段は乗らずにガレージに眠っているクラシックカーを元気に走らせるきっかけとして、紳士なオヤジ達の間で密かなブームが起きているのだ。

現在最も有名なクラシックカーラリーはイタリア生まれのミッレ・ミリアだが、今年から始まった日本初のクラシックカーラリーシリーズ「NASCクラシックカーラリーシリーズ2006」に注目したい。年間4戦で争われるこのラリーは、ビギナー、ベテランの2つのクラス分けと、さらに年式の別の車両クラス区分が用意されている。

初戦は千葉県をスタートとし、首都圏全域で開催。そしてシリーズを左右する第2戦が6月に行なわれた。

舞台は首都圏を離れ信州は長野へ移動。参加台数は初戦よりも増えて30台中、25台は初日のトレーニング講習会を受けて、ラリーのノウハウを勉強。そして次の日、いよいよ本番を迎えることとなった。次々に長野の大自然の中を颯爽と駆け抜けるクラシックカー。雨は降らないにしても梅雨ならではのどんよりとした天気でも、参加者はみな笑顔でラリーを楽しんでいた。結局第2戦のリザルトは初戦で惜しくも2位だった大矢義夫/大矢広子組がリベンジを果たして優勝。ポイントランキングでも2位に100ポイント差を付けて1位になった。

そして第3戦は同じく長野ラウンド。スポット参戦ももちろん大歓迎だからクラシックカーをお持ちの人は、ぜひ実際に参加して、ラリーの魅力に触れて欲しい。

## 1日目はビギナー向けトレーニング



初めてラリーに参加するスポット参戦のビギナーには、初日ラリーにおける講習会が実施された。この場でラリーに欠かすことのできないコマ地図の読み方やチェックポイントでの走り方、ストップウォッチの使い方などをレクチャーする。頭を使うラリーだけに、この講習会に参加するのはしなないのでは本番で雲泥の差が出てしまう。ちなみに実際同乗しての実技トレーニングも実施された

講師

瀧川氏

クラシックカーラリーをこよなく愛し、いろんなラリーで常に上位入賞に輝いているラリーリスト。自らの体験談なども話してくれた



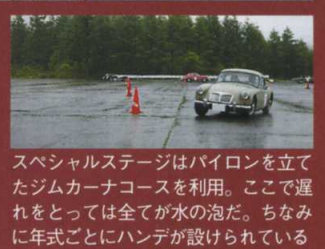
## 150km先にゴールへ向けてスタート



8時10分ゼッケンごとにスタート。梅雨空の今にも降り出しそうな雨にもかかわらず参加者全員はラリーを楽しんでいた。最初は数珠繋ぎの状態であったが、時間が経つと同時に各々が孤立していき、参加者の顔は真剣になっていったのが印象的であった。そしてスペシャルステージではクルマを労わりながらも激しいアタックが繰り広げられ、日頃のストレスを払拭するような走りを見せた。



みな無数のストップウォッチと電波時計を手にして時間の計算には余念がない。1/10秒、1/100秒が結果的に大きく変わってくるのだ



スペシャルステージはパイロンを立てたジムカーナコースを利用。ここで遅れをとっては全てが水の泡だ。ちなみに年式ごとにハンデが設けられている

## 次回は 9月9日 第3戦!

- 距離：長野県内150km
- 参加台数：100台限定（特別車両、プレスは除く）
- 参加料金（1台2名分）：1DAY 5万円（パーティ・ランチ含む）  
2DAY 8万円（宿泊料・パーティ・ランチ含む）

シリーズ第3戦が9月9日10日と開催が決定。ラリー自体全くの初心者という人でも初日の講習会を受けてしまえば、その日から立派なラリーリストの仲間入り！舞台は長野県安曇野市にある安曇野スイス村。今度のコースは峠道でもアップダウンが多く、クルマにも負担はかかるが、自然の道を行くラリーの醍醐味が存分に味わえるはず。まずは下記のホームページもしくは電話で問い合わせを欲しい。

問い合わせ：  
NASC sand works project ☎026-273-4188  
<http://www.nasc-swp.com>

## NASC Classic Car シリーズ ポイント表



### ビギナークラス

- |    |      |               |
|----|------|---------------|
| 1位 | 750P | 雨宮正信/中島啓介     |
| 2位 | 675P | 堀主知口/バート/吉川 登 |
| 3位 | 600P | 佐藤 愛/山澤タダシ    |
| 4位 | 500P | 高橋敏夫/高橋秀司     |
| 5位 | 450P | 志村法幸/宮内和江     |

### ベテランクラス

- |    |       |            |
|----|-------|------------|
| 1位 | 1175P | 大矢義夫/大矢広子  |
| 2位 | 900P  | 延原 靖/元香かおり |
| 3位 | 725P  | 斉藤和寛/真田美子  |
| 4位 | 680P  | 平野善正/貝塚吉貴  |
| 5位 | 650P  | 佐藤公夫/佐藤喜美子 |